

## <第4回あり方検討委員会 小グループ討議>

	医師等グループ	住民等グループ
中核病院 としてのあり方	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中川村の住民は下伊那に生活圏がある方も多いが、やはり昭和伊南総合病院は重要な病院であると考えている。</li> <li>・伊那中央病院との役割分担は必要である。また、今の民間医療機関との連携、それぞれの医療機関の将来の継続性も踏まえた上で、昭和伊南総合病院のあり方を検討していく必要がある。</li> <li>・これまで急性期医療、救急医療を中心に考えていたが、当院が提供している透析やリハビリ等は療養生活において必要な医療であり、重要である。</li> <li>・伊那中央病院との距離があることを考慮し、伊那中央病院と昭和伊南総合病院にはそれぞれある程度の医療機能が必要である。</li> </ul>
救急医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上伊那医療圏の救急医療は、昭和伊南総合病院と伊那中央病院が中心に担っている。伊那中央病院への救急搬送件数も多く、対応が今以上は難しい状況がある。昭和伊南総合病院が救急を充実し、伊那中央と分担・協力していけると、この地域としては、非常に喜ばしいことである。</li> <li>・救急医療の堅持は、この地域にとって絶対に必要な部分である。</li> <li>・昭和伊南総合病院が伊南地域における救急医療の維持においてどれだけ重要な役割を担っているかを理解して頂けるよう、県に対して昭和伊南総合病院における救急医療の必要性をアピールしていくべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・24時間 365時間の現状通りの救急体制は是非継続して欲しい。</li> <li>・救急医療は今後も昭和伊南総合病院での対応が必須である。</li> </ul>

	医師等グループ	住民等グループ
地域完結型 医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の医療機関への逆紹介を行い、悪化した際などに昭和伊南総合病院を再度紹介いただくというように、地域で患者を診る体制を作りたい。</li> <li>・上伊那医療圏は、南北に長い地域であるため、南部では昭和伊南総合病院を中心とし、開業医等と連携を取りながら最終的には看取りを行っていけるような体制が望ましい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間の医療機関との連携の強化を望む。</li> <li>・病院内で、退院した後の療養生活や在宅医療について、看護師やケースワーカー等に相談できる場があるとよい。病院が関連機関・行政等と連携を取って頂くと、住民としては安心して地域で生活できる。患者・家族と地域を繋ぐ役割を担って欲しい。</li> <li>・救急医療をどのように整備するかと同時に、今後の高齢化に伴うリハビリや終末期医療への対応方針を示したほうが良い。</li> </ul>
予防医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の取り組みをぜひ維持してほしい。気軽に受診できる施設として、昭和伊南総合病院は必須であり、予防医療においても伊南で完結することを目指せるとよい。</li> <li>・予防医療、健診事業の充実のためには保健師等の配置も重要である。施設のハード面のみではなく、人員体制のソフト面も十分に検討を行ってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予防医療について、人間ドックが予約しづらい状況がある。健診などを受けたくても受けられないため、新病院では改善を図って欲しい。</li> <li>・現在は施設の老朽化の問題もあるが、マンパワー不足がある。健診センターの常勤医は1名のため、今後医師の招聘に努力する必要がある。</li> </ul>
経営基盤の 安定	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院事業は多額の事業費が掛かるため、健全な経営を行うための経営形態の検討は必須である。</li> <li>・これまで市町村からの繰り入れを行っている経緯もあるため、健全経営を望む声が多い。</li> <li>・経営形態は問題である。民間委託など、様々な経営形態の手段の中で検討しなければならない。将来病院を存続させるために、伊南だけでなく、医療圏やもっと大きなレベルでの検討が必要である。</li> </ul>
教育実習機能・研修病院としての役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和伊南総合病院は質の高い看護を行っていると、看護実習時の評価はよい。220～240床程度の規模が維持できると実習施設として学生を預けることができ、ありがたい。</li> <li>・上伊那医療圏域での看護師不足は問題であるため、昭和伊南総合病院が実習先としての機能を持つことは重要である。</li> </ul>	—

	医師等グループ	住民等グループ
医師の招聘・ 確保について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師の確保が最大の問題である。病院の機能は医師の機能であり、医師の増員を図らないと機能の幅は広がらない。</li> <li>・ 病院として、確実に継続していく医療・診療の体制等を明示しないと医師も集まらず、医療が崩壊する可能性がある。</li> <li>・ 医師を確保するにあっても、新病院の整備、建替えは大きなチャンスである。色々な手立てで医師の要請を図る必要がある。</li> <li>・ ヒトが集まる病院のあり方が重要となる。そのためには、病院のイメージづくりがポイントとなる。建物が新しくなるということもヒトを集める要素の一つとはなり得るが、その後も継続的にヒトが集まるような病院のイメージづくりが必要である。</li> <li>・ 研修施設として選ばれるため、医師の派遣先として選ばれるために昭和伊南病院のそれぞれの科が、大学と関係性を深めるべきである。</li> <li>・ 現在、昭和伊南総合病院の研修に対する評判はよい。今年度初めての取り組みとして救急医療の研修を受け入れている。研修環境等の充実は、このような地道な努力を重ねていくことが重要である。</li> <li>・ 急性期の華々しさを求めている医師も多いが、ある程度の特化された急性期の機能はもちろん、回復期や慢性期といったそれ以外の分野についても医師のやりがいに繋がるようなものをアピールしていけるとよい。</li> <li>・ 大学への要請も民間業者の活用も行っているが、厳しい状況である。今の小児科の医師は、駒ヶ根市の移住政策の応募者であるため、そのような施策も引き続き続けていきたい。</li> <li>・ 本年 3 月の議会にて、時短勤務などの勤務体制の整備を行った。育児等が必要である期間の勤務環境を整え、医師が辞めない体制を整えていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機能を広く持たずに、特定の機能に特化すれば症例数も多くなるのではないか。オールマイティな病院ではなく専門的な分野に集中して、他の医療機関と医療機能を分担することを検討することも必要なのではないか。</li> </ul>

	医師等グループ	住民等グループ
病床機能・ 規模について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回復期リハビリテーション病棟は、入院できる対象疾患が限られていることもあり、回復期機能のうち今後増加の検討対象となるのは、主に地域包括ケア病棟である。</li> <li>・リハビリテーションの専門医が在籍し、専従で配置できている昭和伊南総合病院の回復期医療は、もっとアピールすべき分野である。</li> <li>・病床規模を2040年の患者数のピークに合わせて設定する考えは、必要である。</li> <li>・病床の規模は今後継続して検討が必要。また、部屋の構成として多床室と個室をどのような組み合わせとしていくかにより、病院の特性が大きく変わってくるため、今後議論を深めてほしい。</li> <li>・個室の整備は高い病床利用率が維持できる。感染対策、患者アメニティを考慮して、全室個室の病院も増加している。整備費用等の兼ね合いは理解しているが、個室率の高い病院を望む。</li> <li>・今後、この地域に療養病床は必要であることは間違いない。この地域のどの病院がその機能を持つのか、検討する必要がある。昭和伊南総合病院としても、方向性を示したほうがよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病床規模を小さくし過ぎてしまうことで現在の勤務医が辞めてしまう、新たな医師の確保が困難になるという事態は、総合病院としての機能を持てなくなることに繋がり、望ましくない。</li> <li>・病床の規模は提示案通りで妥当と考えられるが、病床機能の内訳によっても病院の特色が変わってくるため、引き続きの検討を行ってほしい。</li> <li>・</li> </ul>
災害医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害医療体制の充実が重要である。実際に災害が発生した場合、上伊那医療圏の南北の動線が断線することも想定される。医療圏全体だけでなく、伊南地域でも地域の災害医療体制を検討し、昭和伊南総合病院には伊南地域内で災害に対応できる病院づくりをハード面、ソフト面も併せて行ってほしい。</li> </ul>	—
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化が進み、独居高齢者が増加している中で、入院費等の支払いを受けることができないケースが増加していくと思われる。行政での対応と共に、病院も行政と協力・連携していくことを検討したほうがよい。</li> <li>・アンケート調査結果より、昭和伊南総合病院の受診者の80%が自動車で来院していたという点が気になっている。高齢化により自力で来院できない患者が増加すること予想されるため、対応を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の検討内容が住民にどの程度周知できているか、疑問に感じる。今後、住民への説明と周知が必要になると思う。</li> <li>・上伊那全体で昭和伊南総合病院の位置づけを考え、あり方を検討していくことは重要である。その中に、住民の意見をどのように取り入れていくかは課題である。</li> <li>・病院は今後の社会情勢等に対応できるよう、可変性を持つ施設を持つことが重要である。</li> </ul>